

ひとまち社は利用者にもわかりやすい第三者評価のための研修を行っています

研修による評価者のスキルアップ

東京都の福祉サービス第三者評価は「東京都福祉サービス評価推進機構」が行う「評価者養成講習」を修了した評価者が担当します。機構では毎年、フォローアップ研修を企画実施しており、そのうち初回に行う「共通コース」を悉皆研修と定めています。また、3年に1回以上の「専門コース」受講を評価者の要件にしています。さらに今年度より、評価機関は、評価者一人ひとりに個別育成計画をたて、研修の受講状況や成果を報告することが義務付けられました。

ひと・まち社では、評価事業開始当初から毎月評価室会議を行い、評価の実践報告から課題を出しあい意見交換し、また、評価者の要望に応じて内部研修や施設見学を行うことで、問題意識を共有してきました。今年度は個別育成計画に沿って6回の研修を計画し、これまでに3回の研修とグループホームの見学会を行いました。

白山ひかり保育園での見学および研修

第1回は保育所業務を学ぶことをテーマに、施設見学とともに職員の業務内容を学びました。研修の場を提供くださった保育所は、ひと・まち社所属評価者稲葉穂さんが園長を勤める白山ひかり保育園（認可保育所）です。はじめに園舎内を見学、その後「保育所業務について、個別指導計画と記録の読み方」をテーマとした研修を行いました。



一冊の本を囲む子どもたち(年少・年中・年長児)

園は、1階に定員60名の認可保育園、2・3階は同系列法人が運営する認知症対応型共同生活介護（高齢者グループホーム）事業所が入る複合施設として、平成24年6月に開所しました。1階の保育園に入ると明るい配色が目にとやさしく、保育室は0歳児クラス以外がオープンスペースになっているため開放感があります。オープンスペースには年齢別にクラスが設けられていますが、クラスを超えた子どもたちの交流は自然に行われているそうです。子どもの持ち物や遊具、本など細かな物が多くありますが、園内はどこも整頓されており、清潔感がありました。また、園舎が複合



園児とグループホームの交流(行事)

施設であることから上階のグループホームとの行き来が日常的にあり、行事などの特別な日に限らず園児と高齢者が対話する機会が多くある

と説明を受けました。見学に続き、評価に直接かかわる保育業務について、園長より話を伺いました。当園は、保育記録が保育実践を高めるための鍵となるとの方針のもと、繰り返し職員に指導しています。「今日あったことを事実として書く」ことが難しく、しかし、子どもの成長を捉えるために大切な業務であることを実際に活用している書式を用いて学びました。また、参加者の要望から、個別育成計画策定までの手順についても具体的に学ぶことができ、保育所の評価経験の少ない評価者にも分かりやすく充実した研修となりました。

サービスを利用する人にわかりやすい評価とするために

第2回目は、介護保険制度改正について見直しの基本的な考え方やこれに伴う事業環境の変化などの理解を深めるために、淑徳大学コミュニティ政策学部教授鏡諭氏を招いた「介護保険制度改正について」、第3回目は、経営分野を担当する評価者を講師に「組織マネジメント項目の講評について」を実施しました。また、多様な事業所の取り組みを知ることをねらいとした見学会としてグループホーム1件を訪問しました。引き続き「サービス項目の講評について」をテーマに内部研修を企画しています。

ひと・まち社は評価を実践する際に「合議」を大切にしています。1件の評価は、福祉サービス分野を担当する者、組織マネジメント分野を担当する者を組み合わせ実施します。評価者にはそれぞれの分野での経験と専門性が求められており、そのうえで評価に関する情報を収集し、合議を重ねて評価をしています。ひと・まち社で作成する評価結果報告書が、読む人にわかりやすい事業所情報になるよう、評価者の専門性や合議する力を高めることにつながる研修を実施していきたいと思います。

編集後記：震災から2年、NPOによる被災地の「仕事起こし支援活動」が終了するという。家を建てたり公営住宅に移ったりと、狭い仮設住宅から転居する人が増えているためだ。復興が進んでいるのではなく、故郷に帰れない虚しさを抱えたまま、仕方なく新たな土地に住まいを求めてゆく。でもそれは自助努力。参議院選挙が終わり、「ぬじれが解消した」と浮足立っているが、弱い立場のもとに政治の手が届くようになるのだろうか。市民の力で人々の不満や怒りを表現していくことの大切さを感じている。(K)